



レニーと学ぼう! インスリンポンプサークル
Insulin pump Circle

「スマートガード機能との上手な付き合い方を
 確認しましょう」の巻

監修: 大阪市立大学医学部附属病院 小児科
 川村 智行 先生



Q

スマートガード機能を使って、
 上手に低血糖を防ぐ方法は？



A

設定する下限値が低かったり、ボラスの量やタイミングが合わなかったりすると、スマートガード機能を使っても低血糖を防ぐことができない場合があるんじゃ。より上手に防ぐためには、自分に合った下限値の設定やボラスについてしっかりと理解することが大切なんじゃよ!

下限値設定のポイント:上手に低血糖を防ぐために

① 段階的に設定値を下げていく

下限値は、50-90mg/dlの範囲で5mg/dl刻みに設定することができます。

- 安全を最優先に、主治医の指示、患者さんのニーズに合わせて、段階的に適切な下限値を設定していきましょう。
- 始めから低い数値に設定してしまうと、急なグルコース値の低下に対応しきれず、低血糖になってしまうことがあります。

② 必要に応じて日中と夜間で下限値設定を変える

下限値は、1日のうちに最大8パターンまで設定することができます。

- 就眠中のスマートガード機能による一時停止が長く、その後の血糖値が高い傾向にある場合は、夜間の下限値を日中よりも下げることを検討しましょう。
- 日中は、ボラスによって急なグルコース値の低下が起こりやすいので、高め下限値にしておく方が安全という考え方もあります。

③ 高め・低め設定のメリット・デメリットを理解する

適切な下限値設定は個人によってさまざまです。一概に特定の設定が良いとは言えません。

生活のリズムや体調などを考慮し、自分に合った下限値が設定できるように、高め・低めのそれぞれのメリットとデメリットを理解しましょう。

下限値	メリット	デメリット
高め 80-90	低血糖に早く気づける	<ul style="list-style-type: none"> • 一時停止が頻繁に発生する • 停止時間が長く、その後高血糖になる場合がある
低め 50-60	<ul style="list-style-type: none"> • 低めの血糖コントロールができる • 停止時間が短い 	急な低血糖を防げない場合がある

適切な下限値は個人差や生活リズムによって色々じゃ。
 上手に低血糖を防ぐために、自分に合った下限値を
 理解し、段階的に設定することが大切なんじゃよ!



Check point!



スマートガード機能と上手に付き合うために、下記の内容を確認しましょう。
主治医と相談し、対処方法を予め決めておきましょう。

- ・ 一時停止が起こった場合の具体的対処方法
- ・ 長時間停止後の高血糖への対応
- ・ 適切なボースの方法

1 日中など一時停止に気付いた場合

血糖自己測定を行って、センサグルコース値の精度を確認する。

・ 血糖値があまり低くなく、上昇傾向の場合
→ 必要に応じて手動で注入再開。
(早めの再開が後の高血糖の防止になります。)

・ 血糖値が低い、または低下傾向の場合
→ 必要に応じて糖質摂取をする。
→ グルコース値上昇を確認後、手動で注入再開することを考慮する。

2 食事ボース直前に一時停止していた場合

血糖自己測定を行って、センサグルコース値の精度を確認する。

・ 血糖値があまり低くなく、上昇傾向の場合
→ 手動で注入再開。
→ 食事ボース注入。
(減量するかは状況に応じて検討する。)

・ 血糖値が低い、または低下傾向の場合
→ 手動で注入再開。
→ 必要に応じてボース注入を食後にする、またボース量を減量することを検討する。

3 ボース注入中に一時停止が起こった場合

血糖自己測定を行って、センサグルコース値の精度を確認する。

・ 血糖値があまり低くなく糖質を十分摂取している場合
→ 手動で注入再開。
→ ボース未注入分を履歴で確認し、減量して再びボースする。
→ スクエアボースで注入するなど検討する。

4 就寝中など一時停止に気付かない場合

・ 同じ時間に繰り返す場合は、原因となった基礎インスリン量やボースインスリン量を見直す。
・ 急なグルコース値の変化で起こったものでなければ、その時間の下限値を下げることを検討する。

・ 長時間の一時停止で、その後の血糖値が高めであることに気付いた場合
→ 基礎を増やす、または補正ボースなどで対応する。

5 適切にスマートガード機能を活用するために

ボース量が多すぎる、またはボースを打つタイミングが不適切だと、スマートガード機能を使用しても低血糖を防げない場合があります。

■ ボース量が適切であるかを確認する。
・ 糖質量の見積もりは正しいか？
・ 糖質/インスリン比やインスリン/カーボ比は適切か？
・ インスリン効果値は適切か？
・ 体調や運動量は考慮したか？

■ ボースのタイミングを確認する。
・ ボースの3時間後以降に低血糖がある場合は、注入速度を急速にすることや、食前15分以上前にボースすることを検討する。
・ ボースの1-2時間後に低血糖がある場合は、注入速度を標準にすることや、食後打ちまたはスクエアボースを検討する。

■ グルコース値の精度を維持するために、血糖値での較正のタイミングを確認する。
・ 較正は、食後4-5時間以上経っているなど血糖値の安定している時間帯に行う。

***スマートガードは一時停止が再開して30分間は作動しないので注意が必要**

製品を安全にご使用いただくため、必ず添付文書とユーザガイドを併せてご確認ください。

日本メドトロニック株式会社

ダイアピーティス事業部
〒108-0075 東京都港区港南1-2-70

medtronic.co.jp

販売名:メドトロニックミニメド600シリーズ
医療機器承認番号:22500BZX00369000

販売名:メドトロニック iPro2
医療機器承認番号:22300BZX00435000

インスリンポンプやリアルタイムCGMの使用法、アラーム対処などのトラブルでお困りのときは下記へご連絡ください



日本メドトロニック
24時間サポートライン 0120-56-32-56

コール ミニ コール

製品の使用方法やよくある質問などをご紹介します。



www.medtronic.com/minimed640g

パソコン、スマートフォンやタブレット端末からもアクセスできます。



Club Lenny とハローレニー! に登録しましょう

ご希望の患者さんは Club Lenny (メール配信サービスなど) やハローレニー! (はじめてすぐの患者さん向け電話サポートサービス) にお申し込みいただくことが可能です。登録は必須ではありません。詳細は別途リーフレットをご参照ください。
www.medtronic.com/clublenny

